



## 送迎が上達する方法と介助法

第52回ボランティア研修交流会開催

令和二年二月二日(日)十時からJR九州ステーションホテルで、第五十二回通院介護センター「さわやか」ボランティア研修交流会を行いました。今回の研修会は、第一部を五階の移動方法や事故ケガなどについて歩行困難になった高齢者や障害者の方々の移動方法を介護支援専門員の方から講師の方に枝や車いすなどを使って実践を交えてお話をいただいた後、第二部は七階日本料理園に場所を移動し、食事をしながらボランティアさん同士交流を深めていただきました。参加者は十八名でした。

### 研修会で学んだことを

#### この先、活かそう

初めに、梶原常務理事より「本日は山田理事長の不在をお詫びし、他の『さわやか』全員で頑張ります」と開会の挨拶がありました。

次に、岡俊一副理事長が「本日は、この研修会で学んだことをこの先、活かせるようにみんなで勉強しましょう」と挨拶があり、第一部の講演に入りました。

講師に、有限会社コスモケア・ケアプランコスモの介護支援専門員の上原直紀さんをお迎えして『送迎が上達する方法と介助法』と題して話がありました。

上原さんは、『さわやか』のボランティアにも登録していただいています。



有限会社コスモケア・ケアプランコスモ  
介護支援専門員  
上原 直紀氏

まず、杖を使って患者さんとの歩行時の介助の仕方や自動車への移乗の介助の仕方などボランティアさんを見て、丁寧な教えていただきました。

続いて、目が悪い方の誘導の仕方、患者さん役の方にアイマスクを付けていただき、見えない恐怖を体験してもらい、どのように誘導したらいいのか、言葉かけはどうするのかなどを教えていただきました。

次に、車いすの使い方や車いすから自動車への移乗のコツを教えてください、スムーズに移動することができると学びました。

### 新型コロナウイルスにご注意ください!

新型コロナウイルスに関連した感染症が、中国だけではなく日本やアジア各地、アメリカ、フランスなどで確認されています。

国内でも、新型コロナウイルス感染症の患者が確認されています。

### 腰を痛めず患者さんを

#### 抱え上げる方法とは

次に、足の弱い方が坐り込んでしまつて、床から起き上がれない時の介助の仕方は一人では大変だと思つたら、必ず誰か助けを呼ぶこと、患者さんをまっすぐ垂直に抱え上げるのではなく、患者さんと共に前になめに移動するように抱え上げる(垂直に無理に引っ張り上げると介助者が腰を痛めるので注意する)方法

#### (図) 患者さんを抱え上げる方法



風邪や季節性インフルエンザなどの一般的な感染症予防のためにも、咳エチケットや手洗いなどを徹底し、ウイルスの感染を防ぎましょう。

(次号、特集を組みます)

### 車いすから自動車へ

#### 移乗するときの介助

ステップ(1) 車いすを座席(助手席)の横につけ立ち上がり介助します

車いすを自動車にななめにつけ、ブレーキをかけてフットサポートを外します。介助者は膝を曲げて腰を低くし、ご本人の両脇の下に手を入れ、抱き起こします。このとき、ご本人にはできるだけお辞儀をするように足に体重をかけてから立ちあがってもらうと、力が入りやすくなります。

ステップ(2) 身体を座席の方向へ回転させ、頭を深く下げながら座ってもらいます

ご本人が完全に立ち上がった後、座席の方向へおしりが向くよう回転させ、ゆっくりと座席に腰を下ろしてもらいます。このとき、自動車のフレームに頭をぶつけないように頭を深く下げてもらおうとスムーズです。しっかり座席に腰を下ろしたことを確認したら、両脇の下から手を外します。

ステップ(3) 脚を順番に車内に入れ、身体を前向きにします

奥側の脚⇒手前の脚の順に車内に入れます。ご本人が自力で入れられる場合は、ご自分で動かしてもらいます。自力で入れられない場合は、膝裏とかかたを手で支え、車内へ入れましょう。横向きになっていた身体が前向きになったら、シートベルトを装着します。

(図参照)をボランティアさんもそれぞれ交代で体験をされていました。

ボランティアさんの中にも、自分の兄弟を病院へ連れて行き、車いすの使い方の方がわからず困った経験を話され、改めて車いすの使い方を教えてもらいました。



実技をしながらの講演は、時間が足りないくらいの大盛況でした。

第二部は、部屋を七階に移してまず始めにテーブルごとに記念写真を撮りました。

乾杯の音頭を小倉事業所のボランティア小津和静香

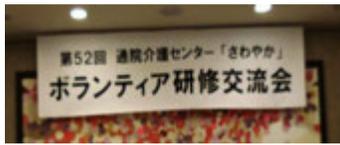
様にお願いをして宴に入りました。

しばらく歓談をしたのち本月初めて参加の方もおられましたので、テーブルごとにマイクをまわして自己紹介をしていただきました。

宴もたけなわの中で、ゲームタイムとなり、一つ目のゲームで本日は令和二年2月2日です。これから、ビー玉をというゲームでした。

次に、ビンゴゲームをして楽しみました。豪華景品をかけて競っていただきました。

参加者の歓声や悲鳴などが上がっていました。最後に、高原事務局長の閉会の挨拶があり、十四時に終了しました。



アイマスクなどを使って



実際に体験しました



ピッタリ計れたかな？



感想文  
**今後もし少しでも「さわやか」の  
 力になれるように**

小倉事業所 ボランティア 上原 直紀さん

小倉北区の居宅介護支援事業所、有会社コスモケア・ケアプランコスモで介護支援専門員をしている上原といいます。

昨年、山田理事長からご連絡をいただき、日常で使える介護技術や送迎の際の心得など、十数年介護に携わっていた経験を日頃送迎に携わっている方々に伝えてもらいたいと依頼があり、少しでも力になれるのであればと引き受けました。

慣れないホテルでの研修と言うことで上がってしまい、予定していた流れでの進行ができませんでしたが、事務局の方のサポートや芳

井さんの積極的な補助で、参加した方に介助する際の一連の動きをお伝えすることができたかと思いません。

午後からの交流会で、江頭先生から、何気なく見ていた介護というものが実際は一つ一つの動作が理にかなっていて精練されているものだったとお言葉をいただき、専門職として本当に嬉しく思いました。

登録して二年が経ち、満足に活動することができていませぬが、今後もしでも「さわやか」の力になれるよう努めていきたいと思えます。

最後に、資料作成や事前準備、当日の進行、ゲームの企画など、事務局の皆さん本当にありがとうございます。

## 第52回 ボランティア研修交流会 スナップ集！



### 感想文

### おいしいコーヒー

### 飲ませていただきます



小倉事業所 ボランティア 岡 俊一さん

研修会で真剣に介護の実習を受けた後は、和宴会場に場所を移しての交流会が開催され、今年も恒例の豪華賞品争奪のゲームが行なわれました。

過去五十一回の研修交流会において、遠い昔に一度だけ一位になり豪華賞品をいただいた記憶があります。

今回は、指定された重量（二二二g）を、大小さまざまなビー玉で表すというものでした。

余計な期待はせず、指先の感覚を集中したところ、なんとラッキーなことになりました。

帰宅をしてから楽しみに箱を開封すると、イタリアD社製の電気ケトルでした。

とても嬉しかったのですが、これは、「忙しいのだから、事務局でコーヒーを飲まないで、家で飲んで来てください」という暗示ではありませぬよね？



事務局より(笑)

### ですよ！

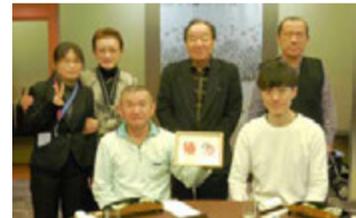


梅チーム

みんなで、ハイチーズ



椿チーム



スイセンチーム